

自主研究会活動報告

関西の道と文化研究会

1. 研究会の概要

1) 研究テーマ

「歴史的、文化的な視点で人と道、生活と道の関わりを研究」

2) 研究概要

近年、都市間競争の激化に伴い、各都市では道路を活用した新たな公共空間を活用した都市魅力の向上を目指し、クルマ中心であった道路を人中心の道へと様々な方法で道路空間の再編が進められている。今後、一層の進展が想定される「人中心の道づくり」をふまえ、これからのあるべき道路の姿とともに、これまでの道の歴史的背景や道が人びとの暮らしや文化活動に寄与した内容がどのようなものであるかについての研究を行うものとしている。

3) 構成員（令和2年3月現在）

代 表：山口敬太

〔京都大学大学院 工学研究科〕

幹 事：清水勝民〔総合調査設計㈱〕

研究員所属

：和歌山大学、大阪市建設局、
神戸市建設局、
奈良県県土マネジメント部、
㈱日建設シビル、大阪ガス㈱、
㈱地域計画建築研究所（アルパック）
中央復権コンサルタント㈱

2. 活動報告

1) 研究会の開催

本研究会では、これまで道路と文化の関係を中心に研究テーマについての議論を行ってきたが、その一つとして大阪市土木局（現：建設局）によって1974年に整備工事が行われた大阪市史跡連絡遊歩道（歴史の散歩道）について、施策の理念や整備プロセスを関係者へのヒアリング等を通じて取りまとめを行うものとしていた。

以後、研究会において議論を重ねた結果、他

に検討テーマを拡大することが必要であるとし、以下3つのテーマをあわせて検討を行うこととしている。また、研究テーマにとらわれず、様々な分野の研究者との交流や講演を通じて文化を導き出していく取組みもあわせて行うものとしている。



写真－1 大阪市史跡連絡遊歩道



写真－2 研究会風景

追加検討テーマ1：道と商業空間

現在では当然のように歩行者中心の道路となっている商店街の空間利用形態や、維持管理の仕組みについての歴史的経緯を学生と連携により取りまとめを行う。

追加検討テーマ2：道とまつり

人中心の道を可視化する取組みという視点で、祭事に伴う車両の通行止めに関して、その歴史的経緯について取りまとめを行う。また、祇園祭では、道路に山鉾を組立てる基礎が組み込まれているが、こうした機能の設置に関してもあわせて対象として研究を行うこととする。

追加検討テーマ3：書籍「大阪の道」等を基礎材料とした「現代版 大阪の道」の取りまとめ

昭和から平成にかけて、京都大学、大阪市、民間の産学官連携によって大阪の道と文化研究会が組織され、堺筋や御堂筋をはじめとした大阪の道の諸元をまとめた書籍「大阪の道と文化（S62）」及び「大阪の道（S63～）」が発行されている（編集：大阪市土木技術協会）。2017年に実施された御堂筋完成80周年記念事業では、その書籍を参照し人びとの生活の関わりを歴史的、文化的側面からパネルで紹介する「地域とのあゆみ展」が開催されているが、その際にまとめたパネルを用いてビジュアルを中心とした「現代版 大阪の道」の取りまとめを行うものとする。



写真-3 地域とのあゆみ展
(御堂筋完成80周年記念事業)

2) 様々な分野の研究者との交流（講演会）

『まちを再生する公共デザイン』出版・増刷決定記念トークイベント

「公共デザインのアプローチをめぐって」の共催

〔日程〕2019年7月23日（火）

〔会場〕大阪ガス都市魅力研究室

当研究会の山口代表が執筆した書籍『まちを再生する公共デザイン』の出版に伴い、「公共デザインのアプローチをめぐって」と題したトークイベントの共催を行った（主催：学芸出版社）。

- ・コーディネーター：山口敬太先生（京都大学）
- ・話題提供：福島秀哉先生（東京大学）
西村亮彦先生（国士舘大学）

トークイベントでは書籍を参考図書として、公共デザインの領域等の概要をはじめ、土木デザイン、公共デザイン、デザイン行政といったキーワードをもとに講演、参加者との交流を行っている。



写真-4 トークイベント
「公共デザインのアプローチをめぐって」

講演会「ウィーンの歩行者を優先する道路空間設計の考え方」の開催

〔日程〕2020年1月9日（木）

〔会場〕大阪ガスビル北館 1北-C1会議室

オーストリア、ウィーン工科大学の柴山多佳児先生を招聘し、ウィーンにおける持続可能な交通体系にむけた施策（ウィーンにおける交通施策の立て方の考え方、具体的施策、EUガイドラインなど欧州における背景）についての講演ならびに参加者との交流を行っている。



写真-5 トークイベント
「公共デザインのアプローチをめぐって」